



令和8年度

内谷中学校学習案内 ～シラバス（第1学年）～



さいたま市立内谷中学校

〒336-0034 さいたま市南区内谷6-10-1

TEL 048-861-7571 FAX 048-836-1586

<http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

国語科の目標
・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。 ・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
学習の特色
国語科の授業では、日常的な語彙の習得から、日本語を用いた思考力や表現力を養います。 目標にある「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、それぞれの意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることを指します。そのような目標に向かって、優れた言語感覚をもった生徒を育成します。 授業は、1・2年生は週4時間、3年生は週3時間で実施します。 日々の授業の中では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について学習します。 また、ICTを活用することで、個々の意見や考えをクラス全体で可視化、共有し、一人ひとりの考えをさらに深めていけるようにします。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○社会生活に必要な国語の知識を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができているかどうか等を評価する。 ★定期テスト、小テスト、提出物の記述内容 等
②思考・判断・表現 ○筋道を立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができているか等を評価する。 ★定期テスト、提出物の記述内容、話し合い活動や、それらの活動に基づいた発表 等
③主体的に学習に取り組む態度 ○言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度等を評価する。 ★提出物の記述内容、授業中の発言や参加状況、ワークシート 等
評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 国語科 第1学年の目標

〔知識及び技能〕日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようになる。

〔思考力、判断力、表現力等〕順序立てて考える力を養い、日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕言葉が持つよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	詩 ふしぎ - 詩の情景や人物の心情を考え、読み取ったことを踏まえて朗読する。 - 詩に関連した身の周りの出来事を挙げたり、詩に表現された考え方について話し合ったりする。 随筆 聞くということ - 文章を読んで、これからの中学校生活で伝えたいこと、聞きたいことをまとめ、共有、交流する。 小説 桜蝶 - 文学作品の構成について理解し、『桜蝶』AとBを読み、構成や展開、描写の仕方にどのような違いがあるかを考える。 説明 自分の脳を知っていますか - 全文を通読し、クッキーを使った二つの実験の説明によって、筆者が伝えようとする内容を捉える。 - 箇条書きにしたものをグループで読み合い、本文の段落構成や内容と比べる。 物語 ベンチ - 本や文章などからの必要な情報の集め方について知る。 文法 言葉の単位 - 文章・段落・文・文節・単語という言葉の単位について理解する。 説明 森には魔法使いがいる - 必要な情報に着目して、調べたり考えたりしながら読む。 - 筆者の考えや述べ方を踏まえ、根拠を明確にしながら自分の表現で筆者の考えをまとめる。 硬筆 - 縦罫線の用紙に行書で書くことができる。
2 学 期	古文 物語の始まりー竹取物語ー - 古典の仮名遣いに注意して音読し、物語の内容を捉える。 「竹取物語」について調べたり、話し合ったりして、そのおもしろさを理解する。 古文 故事成語ー中国の名言ー - いろいろな故事成語について調べたり、発表したりして、由来や意味を理解する。 - 漢文訓読のきまりを理解したり、音読したりして、文章の響きを味わう。 詩 河童と蛙 - 場面と描写を結びつけて読む。 物語 オツベルと象 - 語句の意味や擬声語・擬態語に注意し、その工夫や効果を理解する。 - 作品の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える。 説明 子どもの権利 - 専門的な事柄などを表す語句の意味をおさえ、文章内容を捉える。 - 論理の構成や展開に着目して、筆者の主張を読む。 - 自分の経験と関連づけて読み、自分の考えをまとめる。 文法 文の成分 - 主語・述語・修飾語など、文の成分の役割について理解する。 毛筆 - 行書の特徴を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して書く。
3 学 期	説明 言葉がつなぐ世界遺産 - 事実と意見の関係、文章の構成や展開に注意して読み、筆者の考えを捉える。 - 筆者の考えについて、自分の考えをまとめ、理解を確かにする。 物語 少年の日の思い出 - 場面の展開や登場人物の心情の変化を、描写に基づきながら捉える。 - 語り手に着目して作品を読み、意見を交流するなどして、自分の考えを確かなものにする。 文法 単語のいろいろ - 自立語と付属語、活用の有無などの、分類の基準について理解する。

社会科の目標
・広い視野に立って、社会（世の中）に対する関心を高める。 ・資料を分析・活用して、多面的・多角的に考察し、表現できる力をつける。 ・国土と歴史に対する理解を深める。 ・グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国・社会を形成する一員として必要な、公民としての基礎を育成する。
学習の特色
・身につけた基礎知識を活用し、思考力・判断力・表現力を高めていく教科です。単に覚えるだけではなく、一つの事柄を様々な視点から考えることで、より理解を深められるようにします。 ・世界の動向や地域社会の課題など、社会に課題意識を持ち、解決していくためのスキルを習得できるようにします。 ・授業では、基礎知識を理解するとともに、教科書を中心とした資料を活用し、資料に基づいて考察するなどの学習を進められるようにします。 ・先生の話だけでなく、クラスメイトの主張にも耳を傾けつつ、自分の考えを修正したり補強したりできるようにします。 ・興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりする場として、授業内で自分の考えを、ICTを用いて発表する機会を設けていきます。 ・自主学習課題を工夫して進めることで、主体的に、知識だけでなく思考力・判断力・表現力も伸ばせるようにします。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○社会的事象に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的にまとめる技能を身に付けるようとしている。 ★ テスト（定期テストなど） ★ パフォーマンス課題 （レポートや ICT を用いたプレゼンテーションなど） ②思考・判断・表現 ○社会的事象の意味や意義を、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力や、その思考・判断の内容を説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（定期テストなど） ★パフォーマンス課題 （ICTを用いたプレゼンテーション・レポートなど） ③主体的に学習に取り組む態度 ○社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★パフォーマンス課題 （プレゼンテーション・レポートなど） 評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 社会科 第1学年の目標

〔知識及び技能〕我が国の国土や歴史、現代の政治・経済・国際関係などについて理解するとともに、諸資料から必要な情報を調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕社会的事象の意味や課題について多面的・多角的に考え、適切に判断するとともに、自分の考えを説明したり話し合ったりする力を養う。

〔学びに向かう力、人間性等〕社会的事象について主体的に学び、よりよい社会の実現を目指そうとする態度を養うとともに、社会の形成に参画しようとする力を育てる。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	＜地理的分野＞ 第1編 世界と日本の姿 第1章 世界の姿 世界の大まかな地域構成について学習する。 ・緯度と経度、大陸と海洋の分布などを基に、世界の地域構成を大観し、理解する。 ・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。 第2章 日本の姿 日本の位置や領域など、日本の大まかな地域構成について学習する。 ・日本の国土の位置、領域の特色などを基に、日本の地域構成を大観し、理解する。 ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。 第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界各地の人々の生活と環境 暮らしが環境条件によって変わることについて学習する。 ・人々の生活は自然及び社会的条件から影響を受けることや、世界の人々の生活が多様であること、世界の主な宗教の分布について理解する。 ・世界の人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が行われる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。 ＜歴史的分野＞ 第1章 歴史へのとびら 年代の表し方や時代区分等の基本的なことについて学習する。 ・資料から歴史に関する情報を読み取り、年代の表し方や時代区分を理解する。 ・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、時代区分とのかかわりなどについて考察し、表現する。
2 学 期	＜歴史的分野＞ 第2章 古代までの日本 世界の古代文明から平安時代の国風文化までを学習する。 ・世界の古代文明や宗教、日本列島における農耕の広まりと生活の変化、律令国家の確立に至るまでの過程や変化、仏教の伝来と国風化が進んだことについて理解する。 ・東アジアとの交流と政治と文化の変化などに着目して古代までの日本を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 ＜地理的分野＞ 第2章 世界の諸地域 人々の生活を基に各州の地域的特色について学習する。 ・その地域の特色の影響で課題の現れ方が異なることや各州の地域的特色を理解する。 ・各州においてみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
3 学 期	第2章 世界の諸地域 続き ＜歴史的分野＞ 第3章 中世の日本 武士の登場から室町文化まで学習する。 ・武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が広まり、鎌倉幕府や室町幕府が成立したこと、東アジア世界と密接な関わりが見られたことを理解する。 ・武家政治の展開や東アジアの動きなど、中世の時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

数学科の目標
• 数学を学ぶことで、問題解決の喜びを感じ、人生をより豊かにする。このため、数学と人間との関わりや数学の社会的有用性についての認識を高められる生徒の育成をする。 • 社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められる能力を育成する。
学習の特色
数学科の授業では、定義をもとに、用語や知識の習得と、基本的計算の反復練習、根拠をもとにした説明能力をバランスよく身に付けていく。加えて、3年間を通して、美しく簡潔な解答を作成できる能力を育成する。 1、3年生は週4時間、2年生は週3時間の授業を行う。授業では、教科書やワークシートを活用し、前時の学習とのつながりを意識しながら、系統的に学習を進める。また、ICTを活用しながら、関数のグラフや図形などを視覚的に捉え、理解を深める授業を行う。 さらに、さいたま STEAMS 教育を踏まえ、「言語としての数学」を重視するとともに、他教科との関連を図りながら、自ら考え、問題を解決する力を育成する。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○各教科で身につけるべきとされる知識やスキルについて、十分に習得しているかを評価する。 ★定期テスト、ワークシート、ワーク、授業中の出題 等 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って解決の糸口を見つけ、自らの思いを表現できているかを評価する。 ★定期テスト、ワークシート、ワーク、授業中の論理的な記述 等 ③主体的に学習に取り組む態度 ○生徒本人がいかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤しているかを評価する。 ★定期テスト、授業中のグループ活動や発表・課題レポート 等 評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 数学科 第1学年の目標

〔知識及び技能〕数量や図形などに関する基礎的な概念や性質を理解するとともに、数学的に表現したり処理したりする技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・的確に表現する力を養う。

〔学びに向かう力、人間性等〕数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	1章 正の数・負の数 ・正の数と負の数の必要性和意味を理解する。 ・正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 ・正の数と負の数を活用した問題解決の過程をふり返り、検討することができる。 2章 文字の式 ・文字を用いることの必要性和意味を理解する。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返り、検討することができる。
2 学 期	3章 方程式 ・一元一次方程式の必要性和意味を理解する。 ・一元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 ・一元一次方程式を活用した問題解決の過程をふり返り、検討することができる。 4章 変化と対応 ・比例、反比例の必要性和意味を理解する。 ・比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 ・比例、反比例を活用した問題解決の過程をふり返り、検討することができる。 5章 平面図形 ・平面図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を理解する。 ・平面図形について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 ・図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程をふり返り、検討することができる。
3 学 期	6章 空間図形 ・空間図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を理解する。 ・空間図形について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 ・空間図形の性質や関係を活用した問題解決の過程をふり返り、検討することができる。 7章 データの活用 1節 ・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解する。 ・データの分布について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 ・ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程をふり返り、検討したり、多面的に考えたりすることができる。 2節 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解する。 ・不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かすことができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程をふり返り、検討することができる。

理科の目標
・身のまわりにある自然や物質、あるいは身の回りで起こっている現象について、調べ方を考え、予想をし、観察や実験を行って得られた結果を解析して規則性を把握することができるようになる。 ・そのために、自然や事物現象に対する知識を習得するとともに、その観察や実験で得られた結果を考察し表現する能力、自然や事物現象にいかに関心を持ち、生活の中に活用できるかを考えられる能力を育成することを目指す。
学習の特色
理科は、観察や実験を重視する教科であり、5教科の中でも実技的な要素を多く含んでいる。そのため、テストの結果だけでなく、観察・実験への取り組みやレポートの内容も含めて総合的に評価する。 各学年では、「生命」「地球」「物質」「エネルギー」に関する単元を学習する。さまざまな分野を学ぶ中で、自分の得意な内容や興味のある分野を見つけることができる。また、理科では他教科と関わる内容を扱うことも多く、理科を学ぶことで他教科への理解を深めることにもつながる。 さらに、理科は「疑問」から始まる教科である。常に疑問をもち、自分なりに考え、観察や実験を通して結果をまとめ、発表することができる力の育成を目指す。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○身のまわりの自然や物質、現象などについて知識を習得し、それを利用する事ができるとともに、観察・実験を適切に行い、結果をまとめることができる。 ★主にテスト・観察・実験レポート
②思考・判断・表現 ○身のまわりの自然や物質、現象などがどのような仕組みでそうになっているかを予想し、観察・実験で得た結果をもとに規則性を見つけて、表現することができる。 ★主にテスト、観察・実験レポート
③主体的に学習に取り組む態度 ○身のまわりの自然や物質、現象などについて、積極的に取り組む姿勢を持つとともに、習得した学習内容を自ら活用できるようにすることができる。 ★主に授業ノート、ワーク、レポート テスト、授業の取り組み状況等
評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 理科 第1学年の目標

教科目標	〔知識及び技能〕自然の事物・現象についての理解を深めるとともに、観察・実験などを行い、科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けるようにする。 〔思考力、判断力、表現力等〕観察・実験などを通して、自然の事物・現象について科学的に考察し、根拠を基に判断するとともに、自分の考えを表現することができるようにする。 〔学びに向かう力、人間性等〕自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を大切にし、科学を日常生活や社会に生かそうとする態度を養う。		
指導計画		学習内容	学習到達目標
	1 学期	いろいろな生物と共通点 ○植物の特徴と分類 ○動物の特徴と分類	○野外観察から、校舎周辺には様々な生物が生活していることを見いだす。 ○植物や水中の生物の観察をし、スケッチの仕方を身に付ける。 ○観察記録から、植物が体のつくりの特徴から分類できることを見いだす。 ○植物には種子をつくるものとつくらないものがあることを理解する。 ○動物の種類やその生活についての認識を深める。 ※ルーペ、顕微鏡の操作方法、プレパラートの作り方を身に付ける。
	2 学期	身のまわりの物質 ○いろいろな物質とその性質 ○いろいろな気体とその性質 ○水溶液の性質 ○物質のすがたとその変化	○物質には密度や電気の通りやすさ、加熱したときの变化など固有の性質があることを発見する。 ○状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを発見する。 ○気体の発生や収集方法を習得し、気体の種類による特性を見いだす。 ○水溶液では溶質が均一に分散していることを知る。 ※ガスバーナー、各種実験器具の使用方法、指示薬の使い方を身に付ける。
		光・音・力による現象 ○光による現象 ○音による現象 ○力による現象	○身近な事物・現象についての観察・実験を通して、光や音の規則性、力の性質について知る。 ○実験を通して、光の反射の法則や凸レンズの働きを発見する。 ○音は空気中を波のように伝わり、音の大小高低により振幅と振動数が変わることを発見する。 ○力の三要素を知り、物体に力が働くとその物体が変形したり、動き始めたり、運動の様子が変わることを発見する。
	3 学期	活きている地球 ○身近な大地 ○ゆれる大地 ○火をふく大地 ○語る大地	○大地の活動の様子や身近な地形、地層、岩石などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象と大地の変化との関係について知る。 ○火山や火山噴出物、火成岩の特徴とマグマの性質との関連に気付く。 ○地震の大きさや伝わり方の規則性、地震の原因や地震による土地の変化の様子を理解する。 ○地層のでき方、重なり方の規則性を発見する。
評価方法	学期評価 ＊学習活動への取り組み、提出物の提出率・内容、定期試験、パフォーマンステスト、小テストなどで評価します。 ＊定期試験については、観点に分けて作成します。〔知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度〕		
学習方法	○教室での授業、及び理科室などでの実験、観察。（校舎外なども含む） ○映像やインターネットなどを利用した視聴覚的学習。（ICTの活用）		
その他	○実験室確保のため、教科書の順番を入れ替えて実施する場合があります。 ○観察・実験の際、安全に授業を進めるため、安全メガネを着用します。（今年度購入します） ※着用できない場合は、観察・実験が行えないこともあります。 ○理科資料集（理科便覧）は、3年間使用するので、大切に扱ってください。 ○配布されたプリント類は必ずファイルに閉じて、しっかり保存しておきましょう。		

令和8年度 内谷中学校

音楽科 シラバス

音楽科の目標
・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指しています。
学習の特色
音楽の授業は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」を通して、日常のさまざまなことを、音楽と結びつけて考える力を身に付けること、また、その力をもって生涯を通して音楽を好きになっていくことが目標です。 音楽は週に1年生は1.5時間、2・3年生は1時間あります。1回1回の授業を大切にしていきたいと思います。 2学期には、合唱祭という大きな行事があります。限られた練習時間で歌えるようになるには、個々の努力やユニットでの団結力が必要です。ぜひ混声合唱で歌い合わせるハーモニーの美しさを味わってほしいと思います。 器楽に関しては、全学年でアルトリコーダーの授業の実施、1年生でアルトリコーダーの購入を検討しています。 その他1年生では箏、3年生ではクラシックギターの実技を行います。全学年で能管の練習を行います。 ICTを用いた作曲活動にも取り組む予定です。 また、管弦楽教室（第2学年）、合唱祭（全学年）、能・狂言鑑賞体験教室（全学年）小中合同音楽会（第3学年の1学級）といった学校外のホールにて、音楽に関する行事があります。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能が身についているかを評価する。 ★実技テスト、リスニングテスト、授業中の実技の様子 等
②思考・判断・表現 ○音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるかを評価する。 ★実技テスト、ワークシートの記述（鑑賞）、リスニングテスト 等
③主体的に学習に取り組む態度 ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培われているかを評価する。 ★感想等提出物の記述、授業中の取り組みや発言、テストへの取り組み ★その他、パートリーダーやピアノ、指揮をはじめ、クラスでの協働に尽力した部分を評価
評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 音楽科 第1学年の目標

〔知識及び技能〕曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにできるようにする。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	□「Jump」(内谷中発声練習)、校歌「白いノート」 ・音楽への関心を高め、意欲的に歌うことができる。 □サウンドオブミュージックより □春(「四季」より) ・楽器の響きや強弱による曲想の変化を感じ取って鑑賞することができる。 ・作曲者や背景、楽曲の音楽形式や諸要素を知り多面的に観賞することができる ・楽曲の構成を理解し味わって鑑賞することができる □「夏の思い出」 歌詞の内容や曲の山などを理解し、表現を工夫することができる。 □「合唱祭課題曲」 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ・音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚と感受の関わりを考え、曲にふさわしい表現を創意工夫する。 ・曲想と音楽の構造との関わりや歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。
2 学 期	□ユニットごとの選択曲(合唱祭に向けて) ・混声合唱の響きを感じながら、表情豊かに合唱することができる。 ・多様な歌唱表現を知り曲にふさわしい声で歌うことができる □「赤とんぼ」 ・歌詞の内容を理解し、情景を想像して表現を工夫することができる。 ・美しい発音で表情豊かに歌うことができる。 □「魔王」 ・歌詞の内容を理解し、情景を想像して表現を工夫することができる。 ・詩の内容と音楽との関わりを理解して鑑賞することができる。 □「能」 ・能管などの和楽器に興味を持って取り組むことができる。 ・日本音楽の独特な雰囲気や特徴を感じ取ることができる。 □アルトリコーダーに親しもう ・アルトリコーダーの奏法や運指といった基礎的な知識・技能を身に付けることができる。 ・楽器の音色など音楽の特徴を感じながら演奏することができる。
3 学 期	□日本とアジアの声によるさまざまな表現 ・我が国やアジア地域の諸民族の様々な声で表現する音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解して鑑賞することができる。 ・生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって鑑賞することができる。 □箏曲「六段の調」・箏演奏 ・箏などの和楽器に興味を持って取り組むことができる。 ・日本音楽の独特な雰囲気や特徴を感じ取ることができる。 □リコーダー・箏等によるアンサンブル ・楽器の音色などの特徴を活かしたアンサンブルを創作することができる。 ・リズムを正確に表現することができる。 ・基礎的なリズムを理解し表現することができる。

美術科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育てていくことを目標としています。 ・造形的な視点を生かし、表現方法を工夫して、造形的に表すこと。 ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し、発想や構想を練ること、また美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めること。 ・創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うこと。
学習の特色
美術の授業では、「感じ取ったことや考えたことなど」や「目的や機能などを考えたこと」から発想や構想し、立体や平面の作品に表していく表現の活動や、美術や美術文化について、見方や感じ方を深める鑑賞の活動を通して、作品をつくりあげる喜びや、心豊かな生活を創造していこうとする気持ちを育みます。 美術は週に1年生は1.5時間、2・3年生は1時間しかありません。1時間の授業を大切に制作に取り組みましょう。また、「こんなところにも美術が使われている」「これを美術に生かしたら楽しそうだな」など、日ごろから皆さんの身の回りのものを美術的な視点で見ていくと美術の力につながることができます。 美術は自分なりの正解を創りだしていく授業です。ぜひ、自信をもって作品をつくりあげてください。

評価の観点等
評価の観点 ①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①知識及び技能 ○発想や構想したことなどを基に、創意工夫したり、見通しをもちながら表したりすること、用具を正しく用いているか、形や色彩などの性質や効果などを理解しているかななどを評価する。 ★ワークシート、作品制作の様子、作品などを総合的に評価
②思考力、判断力、表現力等 ○感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に発想や構想をしてくと共に、美術作品や美術の働きや美術文化に関する鑑賞を通して評価する。 ★ワークシート（アイデアスケッチや鑑賞）、作品制作の様子、作品などを総合的に評価
③学びに向かう力、人間性等 ○知識・技能や思考・判断・表現の能力を身に付けるために、どのように努力を重ね、主体的かつ意欲的に取り組んでいるかを評価する。 ★ワークシート（特に振り返りカード）、授業での取り組みの様子や、発言、作品での取り組みの工夫、などを総合的に評価
評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 美術科 第1学年の目標

〔知識及び技能〕造形的なよさや美しさ、表現方法などについて理解するとともに、材料や用具を適切に扱い、意図に応じて表現するための技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕対象を見つめ感じ取る力や想像力を働かせ、豊かに発想し構想するとともに、創意工夫して表現したり、作品のよさや美しさを味わって鑑賞したりすることができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を養うとともに、美術文化に親しみ、生活を心豊かにしようとする態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	オリエンテーション ・美術との出会い ようこそ美術の学びへ ・これからの一年間の学習内容を理解し、課題に取り組む意欲を高めている。 見つめて、感じて、描いて ・身近なものや風景の形や色彩、明暗や質感を観察し、その美しさから主題を生み出している。 ・彩色の用具の生かし方を身につけ、工夫して表している。 ・友だちの作品のよさや美しさに気付くことができる。 文字が生み出すイメージ（レタリング） ・レタリングの基本的技能を身につけている。 ・自分の名前や好きなことなどから主題を生み出し、形や色彩との調和を考え、構想を練ることができる。 ・友だちの作品のよさや美しさに気付くことができる。
2 学 期	絵の中にある物語 ・絵画作品を楽しんで鑑賞活動に親しんでいる。 ・作品を見てどう感じたか構図や色彩など造形的な視点から創造し、友だちと意見交換しながら見方、感じ方を深めている。 自然の美しさから生まれた ・身物周りにある自然物の規則的な造形美に気づき、形や色彩から主題を生み出している。 ・自然物のフォルムの美しさをデザイン化し、工夫して表している。 ・友だちの作品のよさや美しさに気づくことができる。 そのものらしさを形にして ・作品の制作過程を記録として残し、制作に活用することができる。（ICT の活用） ・題材からイメージし、具体的な発想をデザインすることができる。 ・見通しをもって、作品を期限内に完成させることができる。 ・友だちの作品の表現の良さを見つけることができる。 印象派の画家 ・クロード・モネの作品を通して、色彩の効果や感情などについて理解している。
3 学 期	広がる模様の世界 ・自然物のよさや美しさなどの造形的な特徴をもとに、表現の構想を練ることができる。 ・材料の特徴を生かして、制作の順序を考えながら見通しを持った制作ができる。 形や色で伝えるシンボルマーク ・具体物や文字などの形や色彩などが感情にもたらす効果を基に、イメージで捉えることができる。 ・テーマと伝わりやすさの調和と洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。

保健体育科の目標	評価の観点等
・保健体育を学ぶことで、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。 ・各種の運動の特性に応じた技能・健康・安全について理解し、基本的技能を身につける。 ・自他の課題を発見し、解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって運動に親しみ、健康保持・体力の向上を目指し明るく豊かな生活を営む態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○運動の意味や成り立ちを知り、実際に行うことができるか評価する。また保健課題について理解を深められるか評価する。 ★テスト (小テストや実技テスト等) ★授業内の取り組み ★学習カード ②思考・判断・表現 ○自分の課題を見つけ、適した練習を選択し、課題を解決するために必要な力を身に付けたり、表現したりすることができるか評価する。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★学習カード ★授業内の取組 ③主体的に学習に取り組む態度 ○健康や安全に留意し、一人一人の違いを認めながら、仲間と協力して積極的に学習に取り組んでいるか評価する。 ★授業中の取り組み方 ★学習カード 評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 保健体育科 第1学年の目標

〔知識及び技能〕運動の特性や健康・安全について理解するとともに、各種の運動の技能を身に付け、健康で安全な生活を実践する力を養う。

〔思考力、判断力、表現力等〕自己や仲間の課題を発見し、運動や健康について考え、判断するとともに、課題の解決に向けて工夫したり、考えを伝えたりすることができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕運動に積極的に取り組み、健康の保持増進や体力の向上を目指すとともに、仲間と協力しながら主体的に学習に取り組む態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	○体育に関する知識 ・運動やスポーツの学び方や運動の効果を理解している。 ○体づくり運動 ・体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解している。 ○陸上競技Ⅰ（短距離走・リレー） ・技術の名称や行い方などを理解し、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができる。 ○器械運動（マット運動） ・器械運動の特性や成り立ち等を理解し、自己の能力に適した技がよりよくできる。 ○水泳 ※気温によって2学期も行う。 ・記録の向上や競争の楽しさを知り、技術の名称や行い方を理解し、泳法を身に付けることができる。 ○保健（健康な生活と疾病の予防） ・健康の成り立ち・疾病の要因を知り、健康の保持増進について考えることができる。
2 学 期	○球技Ⅰ（ソフトボール・バスケットボール） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ○陸上競技Ⅱ（長距離走） ・自己にあったペースを見つけ、タイムを短縮したり、競争したりすることができる。 ○武道（柔道・剣道） ・基本動作と基本となる技を身に付けることができる。 ○ダンス（現代的なリズムのダンス） ・リズムに乗って全身で踊ることや、イメージを捉えて表現することができる。 ○保健（健康な生活と疾病の予防・心身の機能の発達と心の健康） ・健康の成り立ち・疾病の要因を知り、健康の保持増進について考えることができる。 ・自身の体の機能や発育・発達について知り、心の健康を保つ方法を考えることができる。
3 学 期	○球技Ⅱ（ラグビー・バレーボール） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ○球技Ⅲ（サッカー） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ○保健（心身の機能の発達と心の健康） ・自身の体の機能や発育・発達について知り、心の健康を保つ方法を考えることができる。

令和 8 年度 内谷中学校 技術・家庭科（技術分野） シラバス

技術分野の目標	評価の観点等
技術分野では、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術の関わりや技術のしくみ・原理等について理解を深め、自ら進んで生活を工夫し創造する能力と生活の中から問題（課題）を発見し、解決しようとする実践的な態度を育てることをねらいにしています。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○各分野で身につけるべきとされている知識や技能について、十分に習得できているかを評価する。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・小テスト ・レポート ・作品（実習課題）等 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って自らの考えや思いを表現できているか、課題を解決できているか等を評価する。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・小テスト ・レポート ・作品（実習課題）等 ③主体的に学習に取り組む態度 ○授業（学習や実習）に取り組む態度、授業への参加状況・姿勢、課題等の記述内容等を評価する。 ★評価方法 ・授業の様子（姿勢・取り組み状況） ・提出物の記述内容等 ・作品（実習課題）等 評価規準：○ 評価方法：★

令和 8 年度 技術・家庭科（技術分野） 第 1 学年の目標

〔知識及び技能〕生活や社会で利用されている技術について理解するとともに、材料や工具、機器などを適切に活用し、製作・栽培・プログラミング等に関する基礎的な技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題の解決に向けて考え、工夫し、適切に表現することができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕よりよい生活や持続可能な社会の実現を目指して、主体的に技術とかかわり、仲間と協力しながら学習に取り組む態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	ガイダンス「技術について考えよう！」 ・私たちの生活や社会を支える技術について、技術の見方・考え方から関心をもつことができる。 ・生活や社会を支える技術について考える。 ・技術の発展と生活・産業、環境について考える。 ・日本の伝統技術を知る。 ・技術を通して未来の社会について考える。 材料と加工の技術「身のまわりを整理できるものをつくろう！」 ・材料の種類と特徴について知る。 ・木材の性質と種類について知る。 ・材料と環境とのかかわりについて知る。 ・じょうぶな構造について考える。 ・製作に必要な図をかくことができる。 （等角図、第三角法等）。
2 学 期	材料と加工の技術「身のまわりを整理できるものをつくろう！」（1 学期の続き） ・製作に必要な図をかくことができる。 （等角図、第三角法等）。 ・製図記号を理解できる。 ・図面を読むことができる。 ・製作に必要なけがきをすることができる。 ・けがきにそって切断を行う。 ・切削を行う。 ・下穴あけを行う。 ・くぎ接合を行う。 ・組立の検査と修正を行う。 ・表面と角の仕上げを行う。 ・ワックスがけを行う。 ・完成した実習課題の評価を行う。
3 学 期	材料と加工の技術「身のまわりを整理できるものをつくろう！」（2 学期の続き） ・製作に必要な図をかくことができる。 （等角図、第三角法等）。 ・製図記号を理解できる。 ・図面を読むことができる。 ・製作に必要なけがきをすることができる。 ・けがきにそって切断を行う。 ・切削を行う。 ・下穴あけを行う。 ・くぎ接合を行う。 ・組立の検査と修正を行う。 ・表面と角の仕上げを行う。 ・ワックスがけを行う。 ・完成した実習課題の評価を行う。

令和8年度 内谷中学校 技術・家庭科（家庭分野） シラバス

家庭分野の目標	評価の観点等
•それぞれの分野について、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 •生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する力を養う。 •家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。 ★ テスト（単元テスト、技能テストなど） ★ レポート ②思考・判断・表現 ○生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（単元テストなど） ★レポート ★振り返りシート ③主体的に学習に取り組む態度 ○家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり、改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★レポート ★振り返りシート 評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 技術・家庭科（家庭分野） 第1学年の目標

〔知識及び技能〕家族・家庭生活、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、生活をよりよくするために必要な基礎的な技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕生活の中から課題を見だし、よりよい生活の実現に向けて考え、工夫し、適切に表現することができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕家族や地域の人々と協力し、生活を工夫し創造しようとするとともに、主体的に家庭生活の充実と持続可能な社会の実現に向けて取り組む態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	A【自分の成長と家族】 ○今の自分とこれから ・自分の成長と、家族や地域の人びとのかかわりと自分自身の理解を深める。 ○家庭のはたらきと家庭の仕事 ・家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 ○様々な家族・家庭 ・自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気付く。 B【目的に応じた衣服の選択】 ○衣服のはたらき ・衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ○衣服の選択と着方 ・既製服を選ぶポイントがわかる。 ・和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。
2 学 期	B【日常着の手入れと保管】 ○衣服の手入れ ・衣服の正しい手入れの仕方について理解する。 B【生活を豊かにするものの製作】 ○製作の基礎・基本 ・製作における縫い方や安全な取り扱い方がわかる。 ○シューズ袋の作成 ・製作の手順を理解し、完成までの流れを理解し、製作できる。 B【住まいのはたらきとこちよさ】 ○住まいのはたらき ○住まいの空間 ・住まいの基本的な役割について理解する。 B【安全な住まいで安心な暮らし】 ○家庭内事故への備え ○災害への備え ・家族の安全を考えた住空間の整え方について理解し、工夫する。
3 学 期	C【家庭生活と消費】 ○消費生活のしくみ ○家庭生活における支出と収入 ・消費生活のしくみについて理解する。 C【購入・支払いと生活情報】 ○いろいろな購入方法 ○購入前に知っておくこと ○いろいろな支払方法 ○情報を活用した上手な購入 ・購入方法や支払方法を知り、目的にあった商品選択ができる。 C【消費者被害と消費者の自立】 ○なくならない消費者被害 ・消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。

令和8年度 内谷中学校 グローバル・スタディ科 シラバス

グローバル・スタディ科の目標	評価の観点等
① 第Ⅱ期（小5年～中1） 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。 ② 第Ⅲ期（中2～中3） 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○外国語の知識(単語や文法など)を理解しているかを評価するとともに、外国語の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかを評価する。 ②思考・判断・表現 ○「話すこと」「書くこと」では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり、伝えあったりしているかを評価する。 ○「聞くこと」「読むこと」では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に 応じて、必要な情報や概要、要点を捉えているかを評価する。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、自分がさらに向上していこうとする意志的な側面を評価する。 観点①②③共通 ★定期テスト ★パフォーマンステスト ★授業の活動の様子 ★その他学年ごとに行うペーパーテスト等 評価規準：○ 評価方法：★
グローバル・スタディ科の授業では、基礎的な英語を習得し、それらを用いて「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」「書くこと」の4技能5領域をバランスよく身に付けます。加えて、3年間を通して実践的なコミュニケーション能力を育成します。 授業は週4時間と週5時間を交互に実施します。定期的にALTが授業に参加し、英語による言語活動を充実させます。授業は英語で行うことを基本としつつ、生徒の理解度に合わせて進めます。また、デジタル学習基盤を十全に活用することで、視覚的なイメージによる理解を促し、表現の幅を広げる工夫も取り入れます。 さらに、各教科の学習内容と関連させながら、我が国やさいたま市の伝統・文化への理解を深め、日本人としてのアイデンティティを醸成します。英語学習を自分の将来の夢や進路と結び付け、グローバルな視野を持つ生徒を育成します。	

令和8年度 グローバル・スタディ科 第1学年の目標

〔知識及び技能〕外国語によるコミュニケーションに必要な知識や技能を身に付けるとともに、外国の言語や文化について理解を深めるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕外国語を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合い、相手の話を理解しながら、適切に表現することができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕外国語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとするとともに、異なる文化や考え方を尊重し、主体的に学習に取り組む態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	Get Ready ☐友達との対話や先生へのインタビューを通して、即興でやり取りをすることができる。 ☐アルファベットの形、つづり字、発音について理解することができる。 PROGRAM1 友達を作ろう ☐自分や相手のことを表現する。 ☐相手のことについて知りたいことを質問したり、適切に答えたりする。 PROGRAM2 1-Bの生徒たち ☐自分や相手がすることを表現する。 ☐主人公の友だちについて理解し、話す。 ☐相手の情報を得るための質問をしたり、適切に答えたりする。 PROGRAM3 タレントショーを開こう ☐「できること」「できないこと」を表現する。 ☐タレントショーについて理解し、話す。 ☐誰かができること、得意なこと、特徴などを発表する。 Our Project1 あなたの知らない私 ☐自分のことについて、マッピングを使って話す内容を広げる。 ☐内容を整理して、まとまりのよいスピーチをする。 ☐聞き手に伝わりやすい工夫をしながら、スピーチをする
2 学 期	PROGRAM4 Let's Enjoy Japanese Food. ☐自分と相手以外の人や物について表現する。 ☐日本の文化について理解し、話す。 ☐日本の特徴的なものや人について意欲的に表現する。 PROGRAM5 Pajama Day ☐自分と相手以外の人がすることを表現する。 ☐パジャマデーについて理解し、話す。 ☐自分と相手以外の人について、事実を基にまとまりのある紹介文を書く。 PROGRAM6 The Way to School ☐「理由」などについて表現する。 ☐ジャクソンの通学について理解し、話す。 ☐お気に入りの人物やものについて、質問したり、適切に答えたりする。 PROGRAM7 Research on Australia ☐「～がある」「～がいる」などを表現する。 ☐オーストラリアの様子について理解し、話す。 ☐自分のおすすめスポットや行事について発表する。 Our Project2 この人を知っていますか ☐紹介したい人について、マッピングを使って話す内容を広げ、整理する。 ☐話す順序をよく考えて、わかりやすいスピーチをする。 ☐聞き手のアドバイスを積極的に取り入れ、スピーチを完成させる。
3 学 期	PROGRAM8 Happy New Year! ☐今していることについて表現する。 ☐相手が今何を行っているのか尋ねる。 ☐年末年始の過ごし方について理解し、話す。 ☐今していることについて意欲的にやりとりする。 PROGRAM9 A Trip to Finland ☐過去のことについて表現する。 ☐フィンランドの様子について理解し、話す。 ☐過去にしたことについて意欲的にやりとりする。 PROGRAM10 Grandma Baba's Warming Ideas! ☐過去の様子などについて表現する。 ☐ばばあちゃんの物語について話す。 ☐自分や自分以外の人やものの過去の様子について、意欲的に表現する。 Our Project3 私が選んだ1枚 ☐自分が選んだ絵や写真について、メモやマッピングをもとにスピーチをする。 ☐スピーチの型を活用して、わかりやすいスピーチをする。 ☐聞き手のコメントや質問に積極的に対応し、やりとりを楽しむ。

令和8年度 内谷中学校 特別の教科 道徳 シラバス

特別の教科 道徳 の目標	評価の観点等
道徳性を養う ・道徳的価値について理解し、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める。 ・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	【評価の観点】 次の点に重きを置いて、ひとりひとりの成長に着目し、評価する。 ○他者の考え方に触れ、議論し、自ら考える中で、より多面的・多角的な見方に発展しているか。 ○テーマにした道徳的内容の価値を自分自身のこととして考えたり行動に移したりしているか。
学習の特色	【評価の資料】 ○教師による授業中の観察や事後分析 ○道徳シート ○生徒による自己評価など
【4つの大きなテーマ】 ○主として自分自身に関すること ○主として人とかかわりに関すること ○主として集団や社会とかかわりに関すること ○主として生命や自然、崇高な者とかかわりに関すること *教科書では、それぞれの話題がどのテーマにあたるのか目次などに示されています 【授業】 ○主に各学年の教科書を使い、それぞれのテーマについて、一緒に考える。 ○クラスや学年の状況に応じて授業が進む。全体で同じテーマについて学んだり、クラスごとに話題が変わったりする時期がある。 ○デジタル学習基盤を活用し、意見交換や発表の手段・形態の多様化も図りながらすすめる。 *自分で考えたり探ったり、他の人と対話したり、教材の投げかけを考えたりするなかで、道徳で学習した内容の大切さに気付いたりこれからの自分をより深く考えたりすることが大切。 *考え方を広げていくためには、他の意見に耳を傾け受け止めることが重要。 *考えは表現しないと伝わりにくいので、話し合い活動では積極的に自分の意見を述べ、感想を書く際には自分の考え方をしっかり書く。 *授業で書いたワークシートなどは必ず提出・ファイリングする。	【評価・評定】 ○記述式の評価を行う。 数値や段階による評価・評定は行わない。

令和8年度 特別の教科 道徳 第1学年の学習内容

学期	教材名 【教科書：明日への扉 Gakken】
1 学 期	バスと赤ちゃん 挨拶しますか、しませんか 妹が生まれて うわさで決めるの？ あるピエロの物語 大きく輝く（さいたま市資料） 黒い弁当 裏庭での出来事 自然の懷に抱かれて トキのいる里をもう一度 宇宙で過ごすために 野口聡一 本の世界よ、みんなに届け 村岡花子 わたしのいもうと
2 学 期	岩泉を守る 真の国際人 嘉納治五郎 ネット将棋 町内会デビュー 金色の稲穂 たとえ僕に明日はなくとも 私も同じだよ 日曜日の朝に いっぱい生きる 全盲の中学校教師 公平とはなんだろう らしさって何だろう ネパールのビール 伝統を伝説に 日本の心と技
3 学 期	クラスメイト イチローの軌跡 認められたクラブ 掃除の神様が教えてくれたこと 吾一と京造 傘の下 あなたに “ロコ・ソラーレ メダルへの挑戦” 捨て犬・未来 釣りざおの思い出 壊れた掲示板 オーストリアのマス川 ふと目の前に 森繁久彌 自然の懷に抱かれて ゲームから広がる可能性 エルトゥールル号の遭難

※学習する題材・教材は、各学級の実態やローテーション授業の都合により順序等が変わる場合があります。

総合的な学習の時間の目標
1. 主体的・協働的に学習に取り組む態度を養う 2. 課題を見だし、探究する力を身に付ける 3. 他者と協働し、よりよく関わる力を身に付ける 4. 自分の考えをまとめ、表現する力を身に付ける 5. 自己の生き方について考えを深める 6. SDGs を通して、日本や国際社会への理解を深める 7. STEAMS TIME を通して、問題解決能力を高める
学習の特色
1. 探究的な学習の過程を通して、課題の解決に必要な知識や技能を身に付けるとともに、探究的な学習のよさを理解する。 2. 実社会や実生活の中から問いを見だし、自ら課題を設定して、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現する力を身に付ける。 3. 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 総合的な学習の時間では、各教科で学んだことを生かしながら、教科横断的に学習を進める。また、学習の中で生まれた新たな課題についても探究し、3年間を通して継続的に学習を行う。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○探究の過程を通して、自分自身で取捨・選択し、整理し、既に、もっている知識や体験と結び付けながら、構造化し身に付けている。 ★観察、ワークシート、授業中の提出物等。
②思考・判断・表現 ○実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、整理・分析して、まとめ・表現している。 ★観察、ワークシート、ワーク、授業中提出物、発表等。
③主体的に学習に取り組む態度 ○身近な人々や社会、自然に興味・関心を持ち、他者と協働しながら、課題を探究し、自己の生き方を問い続けている。 ★観察、授業中のグループ活動や発表・課題レポート、まとめ等。
評価規準：○ 評価方法：★

総合的な学習の時間 学習内容

1 学年【自分の生き方・地域・進路】

- オリエンテーション
 - ・基礎学習講座
- 自分・他者について知る
 - ・適性検査や人間関係プログラム
- 地域（社会）を知る
 - ・調べ学習や防災学習（SDGs を意識）
 - ・身近な問題を解決する探究的な学習（Project Based Learning=PBL）
- 自分の生き方や将来について考える
 - ・校外学習やインタビュー等
 - ☆STEAMS TIME（PBL） ※プログラミング的思考を学ぶ（3時間）を含む

2 学年【職業・環境】

- オリエンテーション
 - ・基礎学習講座
- 職業について
 - ・自分、他者、社会 ・話し合い活動 ・調べ学習等 ・発表会
- 環境について
 - ・自然の教室について SDGs の視点で考える
- 身近なところから SDGs を実践する
 - ☆STEAMS TIME（PBL） ※プログラミング的思考を学ぶ（3時間）を含む

3 学年【国際理解】

- オリエンテーション
 - ・基礎学習講座
- 京都・奈良の文化を知る
 - ・調べ学習
 - ・歴史・伝統文化・まちづくり等とSDGs との関連を調べ、考える
 - ☆STEAMS TIME（PBL） ※プログラミング的思考を学ぶ（3時間）を含む
- SDGs を通した国際理解
 - ・異国文化を知る

特別活動の目標	
集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、集団活動に自主的・実践的に取り組み、よりよい学校生活や人間関係を築こうとする態度を養う。 また、学級や学校生活の中から課題を見だし、話し合いや合意形成を通して解決に向けて取り組む力を育てるとともに、自己の生き方について考え、主体的に行動しようとする態度を養う。 1. 望ましい集団活動を通して、協力して活動する力を身に付ける。 2. 自己理解を深め、個性やよさを伸ばす。 3. 集団や社会の一員として、よりよい人間関係を築く力を身に付ける。 4. 課題の解決に向けて、自主的・実践的に取り組む態度を養う。 5. 自己の生き方について考え、主体的に行動しようとする態度を養う。	【生徒会活動を通して】 ・内谷中学校の全校生徒によって組織する生徒会において、生徒の自治意識を高め、学校生活の充実や改善向上を図る活動を支援し、また各学校行事に対し生徒の組織的な活動を支援し、集団及び生徒一人ひとりとしての自主的、実践的態度を育てます。 【学校行事を通して】 ・儀式的行事において、学校生活に有意義な変化や折り目をつけ、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開の動機づけを行うとともに、生徒の一人ひとりの社会性を高めます。 ・体育祭や合唱祭、総合的な学習の時間の発表会等を通して平素の学習成果を総合的に活かし、その向上への意欲を一層高めるような活動を展開しています。 ・旅行・集団宿泊的行事においては、1年次の校外学習、2年次の自然の教室、3年次の修学旅行を通して、平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化に親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験をつむことができるような活動を行います。 ・2年次に行う「未来くるワーク」体験の学習をもとに、勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業や進路にかかわる啓発的な体験を支援していきます。
学習の特色	
【学級活動を通して】 ・生徒の規範意識を育み、よりよい学校生活の充実と向上を目指します。 ・日常の学校生活を通して、学校や学級の一員としての自覚と責任を高め、健康で安全な生活習慣を身に付けます。 ・家庭学習の計画づくりを支援し、主体的に学習に取り組む態度を育みます。 ・1年次には進路についての考えを広げ、自己理解を深めます。2年次には上級学校への理解を深め、進路選択を支援します。 ・「いのちの支え合い」をテーマに、各学年で自他の生命の大切さについて考えます。	【ご家庭へ】 中学校の学習は、各教科、特別の教科 道徳、特別活動及び総合的な学習の時間、さらに、さいたま市は構造改革特別区域法の認定による「潤いの時間」によって編成されています。 特別活動の目的に冒頭にある「望ましい生活習慣」を育成するためにご家庭においても「早寝、早起き、朝ごはん」等を心がけていただきますようお願いいたします。